



1 田子の浦

一面

五姓田義松

明治二十五年(一八九二)

油彩、キャンバス

八九・三×一四四・二

駿河湾岸に位置する田子の浦は、古来景勝地として知られ、画家たちにとって格好の題材であった。五姓田義松(一八五五―一九二五)が描いた田子の浦は、名所絵的な要素を残しながらも、海辺ののどかな情景を細やかな筆致で描き出す。目を凝らすと、人物、家屋、船などが緻密に描き込まれている。伝統的に描き継がれてきた田子の浦の景色に、近代化の一端も垣間見える。山並みや砂浜、岩塊は少ない筆数でモデリングされていながら、モチーフの形態がくつきりと浮かび上がるように描写され、油彩画の技法的な特性が十分に生かされている。描かれた時間帯はつきりとしていないものの、雲や山に反射する光の調子から、朝陽を描いたものであろう。

本作は義松がおよそ十年間にわたる海外遊学から帰国した後、宮内省からの依頼で《加奈陀ビクトリア港》(一八九二年、当館蔵)とともに制作したものである。義松が富士を描いた風景画には、本作と類似する構図の作品が複数現存する。五姓田派に属した他の画家たちにも、同様の構図による富士を描いた風景画が多くあり、当時こうした作品に対する一般の需要が高かったことをうかがわせる。



- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

海と山のあいだ ―近代日本の風景描写

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 86

編集 宮内庁三の丸尚蔵館
制作 株式会社アイワード
翻訳 黒川廣子
発行 宮内庁
令和二年七月二十三日発行

©2020, The Museum of the Imperial Collections, Sanmomaru Shozokan